

関西在住・私大・非常勤の立場から ネパール関連文献を利用する

岩間 春芽

本稿を通して紹介したいことは大きく分けて二つある。ひとつは関西在住で私大の非常勤職員として勤めている立場からのアジ研図書館の利用について、もうひとつはアジ研図書館におけるネパール関連文献の充実ぶりについてである。

まず、関西在住で私大の非常勤職員として勤めている立場からアジ研図書館がどのような形で利用可能なのかについて紹介したい。私は二年前に大学院を満期退学し、現在博士論文や投稿論文を執筆しながら私大の非常勤職員として勤めている。まだ博士号を取っていないので本格的な就職活動はできないし、フルタイムで働いてしまうと論文を書く時間が無くなるため、非常勤職員という立場で働いている。この場合、困るのは文献収集ができる図書館へのアクセスが限られるということである。

在籍していた大学院は卒業生という身分でしか使えないため、電子ジャーナルはプリントアウトして複写代を払わなくてはならない。図書も閲覧はできるが貸出はできない。文献をコピーするにも在学していたころのように研究室の複合機が使い放題とはいかず、離れたところにある複合機まで本を抱えて行きコピー代を負担してコピーしなければならぬ。全く使えないわけではないが、かなり制限がある。非常勤先の大学も蔵書が限定的であり、また非常勤と

いう立場であることからあてにできない。

このような状態にあるのだが、博士論文や投稿論文を書くには文献が必要である。そこで調べていたところ、ジェトロのビジネスライブラリーが大阪にあり、そこにアジ研から文献の取り寄せができるということを知った。アジ研図書館の蔵書の充実ぶりは知っていたが、遠方であるためなかなか利用できずにいた。しかし、大阪のビジネスライブラリーは比較的アクセスの良いところにあるため、非常勤の帰りに寄ることができる。相互利用のように送料を負担する必要もなく、一回につき一〇冊の取り寄せができる。統計類は数年分一気に使うことが多いが、それを相互利用で取り寄せると送料がばかにならない。しかしこのサービスを使えば、統計類をまとめて数年分みることもできる。このように、アジ研図書館から遠く離れた関西在住でも、私大の非常勤職員という立場にあっても、アジ研図書館の文献を無理なく使うことができるのである。

次にアジ研図書館におけるネパール関連文献の充実ぶりについて紹介する。ネパール関連文献はインドなど周辺の国々に比べると圧倒的に少なく、直接的に植民地になつていないため古い(開国前の)文献はあまり多くは存在しない。日本ではアジ研図書館、東京大学東洋文化研究所、国立民族学博物館、京都大学アジア・アフ

リカ地域研究科に比較的多い。アジ研図書館は統計や政治経済関連の文献、東文研は比較的古い文献、民博は人類学関連の文献、京大AA研は比較的新しい文献全般という傾向の違いがみられる。ここ数年ネパール関連の文献も電子化が進んでおり、ネパール統計局の発行する統計類やネパール政府、援助機関の報告書はPDFファイルが公開されていることが多く、またDigital Himalayaやnepjolなどのサイトでは雑誌のバックナンバーや貴重本を電子化したものなどが公開されている。このような状況のなかで、アジ研図書館の強みは統計が古いものから現在に至るまできちんと揃えられているところにある、日本ではアジ研図書館にしか蔵書がないものも少なくない。

今後願わくばであるが、アジ研図書館には電子化された文献の保管作業を進めていただきたい。既に述べたように、近年文献の電子化が進んでいるが、PDFファイルで公開された文献は一度公開されても途中で公開が中断され突如使えなくなることがある。そのため、一度公開されたPDFファイルを保存し、それを継続的に保管する場所が必要であり、アジ研図書館がその場所として最適なのではないかと考える。また、ネパールでの文献収集も継続していただきたい。ネパールの図書館は管理が必ずしも十分とはいえず、昨年はネパールの大型書店のひとつが火事で全焼するといったこともあり、ネパール国外での文献管理が重要であるためである。

(いわま はるか／大手前大学非常勤職員)